

アジア・アフリカ ラテンアメリカ

おおさか **AALA**
非核・非同盟・平和・友好・連帯

〒540-0004 大阪市中央区玉造 1-6-11 黒石ビル3F

2025年 4月1日 No. 626

大阪アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会

元政治囚グループの公演



ベトナム平和交流ツアー

見て聞いて、学んできました

後編

旅のメイン・イベント 歌の交歓―文化交流会(6日)

西野敏恵

コンダオ島で囚われの身となつた政治囚の女性たち。酷い拷問を受けながらも生きながらえた彼女たち。私たちは前日、戦争証跡博物館で監獄を再現したのを見てきたばかりだったので、彼女たちの姿を見ただけで胸がドキドキしました。ホーチミン市青年文化センターという大きな会館でした。「聞いてない。こんなに大きい建物だとは」と心の中で叫びました。

中に入ると老いも若きもいっぱいの人達。私達の席は舞台に向かって左側。舞台上上がる段取りとかを知らないので、鈴木

さんもわからないようでは口オロするばかり。

そのうちに現地の司会者が現れて交流会が始まりました。チユオン・ミーレ団長が歓迎の挨拶。元女性政治囚チームの代表です。監獄で子どもを産んだ方です。つぎは堀内団長の挨拶。とても素晴らしいものでした。というのも相手から内容に気を付けてという注文があったからです。団長の役割を努めてもらいました。

さて、彼女たちの演技が始まりました。地元の人たちの歌ですが言葉がわからなくて残念でした。ミーレ団長率いる演目がメインのものでした。獄中での暮らし、受けた拷問、仲間と助け合う様子をオペレッタにしたのです。この時の衣裳は黒一色で首には白と黒のギンガムチェックのマフラー。当時はこの衣裳で戦ったのです。

(3ページへ続く)

ベトナム平和交流ツアー旅行記（後半）

5日目（2月11日）

南部の都市 ホーチミンへ

難波進

朝5時、モーニングコールで起床。6時までに荷物を整理して朝食。6時30分出発。9時20分発の飛行機でベトナム随一の商業都市ホーチミンへ。1時間半でタンソン・ニャット空港着。ホーチミンは気温32度。急に暑くなって日本の夏と同じで半そでシャツに。

ベトナムの平均月収は日本円で5万円くらいだそうです。車が高く500万円以上するのでバイクが多く、バイクの2人乗り3人乗りが目につきました。ガイドさんに聞くと、夫婦と子ども2人までは違反にならないそうです。バイクの8割はホンダ・ヤマハ・スズキなどの日本製。道路が狭く整備されていないの

で、渋滞を防ぐために車の数を制限しているそうです。

ホーチミン中心部の土地は1坪（3.3㎡）、四千万円もすると聞いてびっくりしました。ベトナム料理は中華料理より油が少なく日本人の口に合った味でおいしかったけれど、量が多くて食べきれないし毎度毎度続くと飽きてきました。

ホーチミンでの見学は、まずフランス統治時代（19世紀）に建てられたヨーロッパ風の郵便局の見学。



ホーチミン・バイクの波

重要な建築文化財だそうです。今でも現役で手紙や小包を扱う郵便業務を行いながら、観光施設として土産などを販売していました。



観光客でにぎわう局内

画館など、権力をかさに着て贅沢三昧していたことがわかりました。

次に見学した「戦争証跡博物館」という名前は、アメリカを刺激しないように戦争犯罪博物館としないで戦争の証拠・戦跡を展示する「戦争証跡博物館」としたそうです。

米軍の従軍カメラマンや日本のカメラマン（石川文洋さんら）など、すぐたくさんの写真が展示されていました。時間がなくてゆっくり見られませんでした。「ベ平連」など日本のベトナム支援の旗や写真も展示されていました。裏庭には政治囚を閉じ込め拷問をした「トラの檻」があり、前庭にはアメリカ軍の



大統領夫人の部屋

飛行機や戦車・ヘリコプターなどが並んでいました。最後に、68階265mのビデクスコ・ファイナンのシャルタワーの49階スカイデッキ展望台からの眺望を満喫。高層ビルと低層の建物、空き地などが混在しており、発展途上にあるベトナム、ホーチミンの様子がわかりました。



展望台からの眺望



米軍に捕まった人民軍兵士

6日目(2月12日)午前

(1ページの続き)

日本の歌を披露

西野 敏恵

次に我々が日本の歌を披露する番です。「自由ベトナム行進曲」を、若かったころを思い出して歌いたかったんだけど、音響が大きすぎてそんな想いは消えました。そこで我々は「青い空は」をうたったのですが、それは聴いている人々に伝わったと思いました。ベトナムの人たちは「青い空」と一緒に歌えると思っていたのです。その時は、私たちは「うー」で歌おうと言いついていたのですがそんな場面はありませんでした。

舞台を降りるように指示があり、我々がおおさかAALAと移動したあと、現地の合唱団のメンバーで、白いアオザイに赤いスカーフを首にかけて男女が登場して歌いました。が、また舞台上



ライトを浴びてコーラスを披露

クのマフラーを私たちの首にかけてくれたのです。こうして文化交流は終わりました。すてきなひとときでした。そうそう終わりに堀内団長に花束が贈られました。最後まで働いてもらいました。

6日目(2月12日)午後

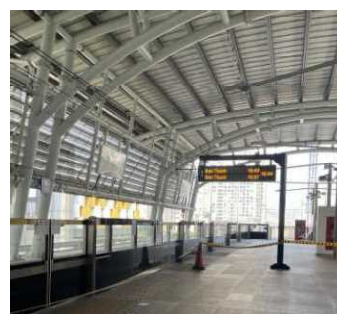
ベトナム市場とホーチミン市最初の地下鉄

粕谷 武志

元政治囚の方たちとのうたごえ交流の余韻が残る中、私たちはベトナム市場へ移動し、ベトナムの活気と市民の台所を見てきました。

市場はひとつの大きな建物の中にいっぱいのお店がひしめき合っており、あらゆる種類のものを売っています。思うように歩けないほどの混雑で、まさにベトナムの喧騒と活気を象徴するような市場でした。

ここの市場の地下を起点としてホーチミン市の最初の地下鉄が昨年末に開通したということで、私たちはその新しい地下鉄に乗りました。



広々したプラットフォーム

そして、6つ目のアンフー(An Phu)駅まで行き、ショッピング街の中にある日本でもなじみのマクドナルドの店の一角を貸し切り状態にして、鈴木さんの友人である幼稚園教師のキャン・トゥオイさんを囲み、懇談しました。その後ホーチミン市の月刊誌の記者であるゴ・チュン・ズンさんが到着。私たちは幼稚園教師トゥオイさんと雑誌記者チュンさん、2つのグループに分かれました。

幼稚園教師との懇談

西野 敏恵

鈴木さんの通訳で、男性2名と女性7名がキャン・トゥオイさんを囲んで懇談しました。

トゥオイさんは鈴木さんの友人で、グエン・ゴックさんがホイアンの私立大学の理事長をされていた頃、秘書を務めておられました。また、2017年、グエン・ゴックさんに同行して来日されたということでした。

今はモンテッソーリ教育を実践している幼稚園で勤務されています。その幼稚園は子どもに強制することなく、子どもの自発的な力を大切にすることを教育方針とし、保護者も教育熱心



トゥオイさん(左)



ゴ・チュン・ズンさん（右）とガイドのパオさん

な方が多く、保育士の待遇もよく、トゥオイさん自身は職場については特に悩みはないということでした。ベトナムの一般の幼児教育について質問しました。保育所は3ヶ月児から3歳児までを預かり、幼稚園は3歳から6歳まで預かります。保育所は朝の7時半から夕方の4時45分までのことでした。トゥオイさんご自身が私立の先生なので、公立の幼稚園の保育環境や労働問題について聞くことができなかったのが少し残念でした。日本では今、選択的夫婦別姓について議論されているので、ベトナムの結婚と姓について尋ねました。ベトナムでは結婚しても夫婦別姓のまま、妻が夫の姓を変えることはなく、夫婦ともに結婚前の姓をそのまま使用しているとのこと。子どもは父親の姓になると聞きました。

雑誌記者との懇談

粕谷 武志

雑誌記者の通訳にはガイドのパオさんがつきましました。私は雑誌記者のグループに入り、ひととりの話のあと、地下鉄建設が10年遅れて完成したことについての質問をしました。ベトナムの経済発展は目覚ましいものがあるのですが、前日にスカイデッキから見たホーチミンの町には、建築途中でストップしている高層ビルがいくつも見えて、経済の発展は順調ではないことを感じていたからでした。計画経済であるベトナムの地下鉄建設がなぜ10年も遅れるのか疑問だったからです。チュン・ズンさんの回答は、計画ができたのは20年前でその後の不動産価格の上昇により資金が足りなくなったの

と、数年間続いたコロナ禍によるものとの説明でした。

ベトナムの報道のあり方は

他の人は、チュンさんが編集している雑誌のことや、ベトナムから見た日本の評価、ドイモイによる経済発展、過労死はあるかなど多彩な質問がきました。また、チュンさんの働いている雑誌社は政府から独立しているのかとの質問に、政府から独立している雑誌社や新聞社はないとの返事がガイドのパオさんを通じて返ってきました。ベトナムの報道は、やはり制限があるだろうとのが想像できました。また、後から考えると、パオさんの通訳の仕方によってもチュンさんの話や回答の印象が変わってくるのではないかと思います。どのように私たちに伝えていたのか実際のところを知りたいものだと思います。



2グループに分かれて懇談会

帰国の途へ

尾川 理江

懇談の後、再び地下鉄に乗って、ホテルへ戻りました。ホテルの前の広場には、「巴」をかたどった飾り物が華やかで、ベトナムのお正月（テト）の名残を感じました。

ホテルで休憩後、いよいよ最後の食事へ。品の良いしつらえのレストランで、ベトナムフレンチの食事を味わいながら、長いようで短かった旅のあれこれを語り合いました。

その後ホーチミン空港で各々の思い出を胸に機上の人となり、楽しかったベトナム旅行は幕を下ろしました。（旅行記・完）

参加された方の感想



ダナンの町並み

飯田 裕子

高校生のときにベトナム戦争があり、そのときの担任が「ベトナムが必ず勝利する」といった言葉に大きな疑問と衝撃を受けました。

卒業、大学入学の春5月1日に大学で赤旗の宣伝がされていて「アメリカの撤退とベトナム解放戦線の勝利が伝えられました。歴史の感動的な瞬間に立ちあえたことは素晴らしいと思いました。

今回の旅行でどのような戦いがされたのか、侵略から自国を守る強固な心がベトナムの人々に息づいていること、本当に粘り強く、しなやかに豊かに展開されたこと、を肌で感じることできました。ソンミ村の地を歩けたことも様々な場面を想像できました。50周年というひと区切りの年にベトナムの人々が今の現状をしっかりと受けとめて発展されることを願います。特にアセアンの平和と自由と独立のためにとしたいと思います。

同時に被爆国の日本の世界から求められる姿勢やシンダーや働き方の貧しさ、豊かさを問われていると思います。

とても充実したベトナム7日間の旅でした。ベトナムの人々がいかに勇敢に、そして自己犠牲と知恵で侵略者を追い出し、自由と解放を勝ち取ったかがよくわかりました。特に「空のデインビーエーフーB52博物館」や戦争証跡博物館、「ソンミ虐殺記念館」見学をして戦争はいかにむごいかとショックを受けまし

難波 千里

た。また、「海のホーチミンルート」の著者 グエン・ゴック氏（94歳）が今も健在であること、私たちと懇談する機会を持ってくださったことに感動しました。「海のホーチミンルート」は、ベトナムの名もない船乗りや女の人が命をかけて海のルート（船）で、北から食料、武器などを南に送った実話ですが、国民に支持されたからこそ勝利できたのだと思います。

最後の日のヴェトナムコングダナオ監獄などで闘った元政治囚のうたごえチームとの交流は、みんなで舞台に上がり、「自由ベトナム行進曲」と日本の歌など3曲を歌いました。そして言葉は通じなくても手を取りあい交流しました。

この旅を計画してくださったAALAの皆さん、ありがとうございました。

今回の旅は、すごい経済の発展には驚きました。ベトナムの案内で、ソンミ村虐殺事件や、戦争記念館などこれでも、これでもかと戦争の非道な事を改めて感じました。



解説する鈴木勝比古さん

ベトナム戦争時報道を通してその惨事をかいまみていたので、いつかはベトナムへ行ってみたいと思っていました。

松岡 幸子

今回西野さんのお誘いもありましたが、鈴木さんが同行されるとのことだったので是非都合をつけて行くことと決めました。予想以上の成果を頂きました。現地に行ってみてわかること、貴重な経験ができたと思います。

特に鈴木さんの当時々今日までのお仕事ぶりや人とのつながりを大切にされて

いること、色々教訓としたことたくさんありました。又参加された皆さんと交流ができたことも良かったです。AALAの西野さんはじめJU観光の尾川さんのご配慮等ありがとうございました。

脇本 延子

大阪AALAの旅に参加させて頂き大変、ありがとうございました。今回はホイアン、ホーチミンがあったのでどうしても行きたいと思いました。

一番の印象は、すごい経済の発展には驚きました。ベトナムの案内で、ソンミ村虐殺事件や、戦争記念館などこれでも、これでもかと戦争の非道な事を改めて感じました。

三百万人戦死者と四百万人負傷者を出した戦争でした。もうこんな戦争を二度とあってはならないと思いました。安倍戦争法の時、孫は中二でした。クラスほぼ全員が安倍賛成だったと悔しがって泣いて帰った事があった時、どうやって慰めてやったら良いかと、何人かの弁護士さんに聞きました。すると戦争が始まりそうになったら、白旗をあげるのが一番被害が少ないと言われ、成程と思い、白旗作戦をこれからは広げて行くべきと思います。そのためには国連憲章に基づく戦争の回避しか無いと思います。人の命が1番大切だと思うからです。



ベトナムの正月を彩る黄梅（ベントイン市場にて）

男性にこそ参加してほしいイベントでした ー国際女性デー大阪集会で感じたこと

ドーンセンターで開かれた「国際女性デー大阪集会」（3月7日）に大阪AALAの物品販売と宣伝を兼ねて参加しました。そこで聞いた辛淑玉さんのお話（鳥観図で見る日本社会）がとてもよかったので、感想を含めて少しだけ紹介します。

世界から日本を見る

辛さんは世界10数カ国で人材育成に関わる仕事に携わってきたとのこと。多くの国で仕事をし、生活してきた経験から客観



辛淑玉さんの講演を聞く参加者

的に日本の現状を見ることのできるようになったという事です。まさに日本の社会を鳥観図的に見る事ができるわけです。（一般的には鳥瞰図という字を使いますが、辛さんは上からよく見る、意思を持つてみるという意図でこの鳥観を使つたのです。俯瞰することとは違うのだということですよ）。

遅れている日本の民主主義

辛さんは、日本の人権感覚の貧弱さや、許してはならないことを放置してしまつて改革を避けて通つていく現状に対して問題提起をしていました。また、日本人は自分の意見を持つて主張することより、大勢に従うようなところが「あなた」の意見には反対する」ということは人間関係もすべて否定してしまうことになると思つて、お互い

の意見を出し合つてよりいいものを築いていくという民主主義が十分に根付いていないことの表れではないかということです。背景には、日本の社会の閉鎖性、差別性というものがあるのではないかと思ひました。

行動することが大事

ドイツなどでは、ヘイトをだまつてそのまま見過ごしていたらだめだということ、ヘイトに反対する行動として、いろんなところに書かれたヘイトの落書きを消して回るといふ運動を紹介してくれました。人権を否定し人種差別を煽るようなことには決して黙らずに行動で表すことが大事だということ。私たちも学ばなければならぬことだと思ひました。

辛さんのお話の中で、私が印象的に感じたことをかいつまんで紹介しましたが、世界から日本の現状を鳥観的に見るこの大事さなど、もう一度聞いてみたい講演でした。

ヘイトの報道に勝つ

後付けで辛さんのことを紹介しますが、彼女は2013年にヘイトスピーチとレイシズムを乗り越える国際ネットワークを立ち上げて、ヘイトスピーチを根絶する運動を進めています。

また、「ニュース女子」という2017年に放送された番組で、沖縄の高江で平和運動をする人々を愚弄した報道に対して裁判を起こし、勝訴し最高裁でその勝訴が確定しています。ウソやヘイトは許さないと辛さんの強い意志のあらわれであり、多くの支援者のたたかひの勝利です。

最後にこの国際女性デー



アオザイ姿で司会を務める西野さん

で大阪AALAとして、幟を上げて泉州タオルと安井さんの本『分断に抗う壁画たち』を販売しました。勧め上手の上村さんが手伝つてくれたこともあり、安井さんの本4冊を完売し、タオル24セットが売れました。AALAのみなさんの協力のたまものです。また、江野さんの勧めで機関紙読者も1人増え、うれしい国際女性デーとなりました。

（粕谷 武志）



卓ちゃんの ミクロネシア通信 その3

■島国の山の中にある学校

南太平洋に浮かぶ小さな島国ミクロネシアに来て3カ月が過ぎました。住んでいるところは山の中にある学校の教員寮で、町までは徒歩で2時間、車で40分ほどかかります。ほとんどの教職員が敷地内にある教員寮か教員住宅に住んでいます。悪路で遠いからという理由でタクシーは学校にきてくれません。三食ついているので、ずっと学校の敷地内で生活しています。



ミクロネシアは4つの州から構成される連邦国家で、州ごとに独自の州法を持ち使用言語も違います。他州に行く場合にはパスポートが必要で、空港ではイミグレーションを通過しなければなりません。わたしが住んでいるチューク州から首都のあるポンペイ州までは700kmの道のりを1時間半かけて飛行機で行くことになります。

年間がほとんどです。小中学校で使われる言語は英語と現地語で、小学校高学年になると完全に英語になるそうです。そのため、生徒は赴任校のあるチューク州からだけでなく他州や近隣の他国、パラオ・マーシャル・フィリピンなどからも入学してきます。男子生徒は学校の敷地内にある寮で生活し、女子生徒は自宅かホームステイ先からスクールのバスで登下校しています。卒業後は、大半がグアム大学やハワイ大学に進学していきます。

■多文化理解のための

日本語教育

日本語教育は、実用よりも多文化理解や多文化共生のために行われています。そのため、日本語の授業は日本語教師がいたら開講するものになっています。現在、日本語授業は1年生は必修で週に約3時間、3、4年生は選択で週に約4時間実施しています。来年度は、1年生と2年生が必修



になる予定です。教科書がないため、国際協力基金が作成したオンラインの無償テキストを使っています。絵や写真、音声をふんだんに使いたいので、そのテキストをベースにしてパワーポイントで教材を作って授業しています。生徒全員が初めて日本語を習うため、授業は英語とローマ字を使って行っています。授業準備が大変です。わたしは英語が得意ではないので、授業中に話す内容は事前にすべて文字化し、自分のオフィスで1人で何度か練習し、授業原稿を完成させていきます。一コマの授業のために3、4時間は準備に取りられます。日本語教師あるのです。

■モーニングスタディで

始まる一日

スクールバスは7時半に

は到着し、7時45分からの1時間のモーニング・スタディ(自習時間)で1日が始まります。わたしも7時半には出勤し、教員用ダイニングルームで朝食を取り、自分のオフィスに向かいます。授業は8時55分に始まり、50分授業を6時間やり、3時20分に終わります。その後、スポーツやコーラスのクラブ活動、全員必修の体育などがあり、5時にスクールバスが出発し全体での1日は終わります。男子生徒は夕食後7時半から9時半までの2時間、スタディルームでのナイト・スタディです。

8時半以降は教師の部屋へ質問や相談に行ったりすることもできます。そのため、教師はその時間には教員寮から自分のオフィスに戻ってきて生徒の対応をしています。生徒も教師も9時半には1日が終了。わたしは8時から9時半の間には帰宅しています。オフィスからはベッドだけがある狭いワンルームの居室へ3分

(7ページから)
 帰ることができません。毎日、13〜14時間は学校に滞在していますが、自分のために使える時間もありません。小規模校なので、常勤の教職員は20人。その他に、生徒用食堂の調理人や洗濯スタッフ、環境整備スタッフ、運転手など10人ほどが働いています。教職員は多国籍です。フィリピン、インドネシア、韓国、イギリス、アメリカ、ミクロネシアから来ています。多くがカトリック教会からの短期派遣で教会ボランティアです。全員に共通していることは、わたし以外英語が堪能だということですね。難しい教育問題など流ちょうに英語で語り合っています。わたしは聞き取ることができなく、所々聞こえてくる単語を拾って自分なりに話を組み立てていますが、だいぶずれていきます。職員会議での内容があまりにも理解できなかったもので、「みなさんの話がほとんど聞き取れません。そのためたくさん失敗してきた

かもしれません。できれば大事な連絡は文章にして連絡してくれませんか。それだと、時間をかければ理解できます」と全員に連絡。職員会議の次の日に、校長から議事録が送られてきました。こんな大事な連絡事項もあったのかと驚きました。ようやく学校の流れに乗ることができ、教職員の1人になれたような気がしました。その後、校長は毎週議事録を全教職員に送ってくれています。昼食と夕食はだいたいみんなと教員用のダイニングで取ることが多いです。みなさんは楽しく英語で会話。ジョークで一斉に笑ったりしています。わたしはついていけません。でも、この空間にいることがなぜか楽しいので嫌になることはありません。徐々にわかるようになるだろうと思いつつながらコツコツを英語の勉強を続けています。

1年後には、なんとか会話できるようになりたいと思っています。

(畑山卓)

英語で世界を読む会 4・5月例会

「読む会」3月例会には、ベトナム・ツアーに参加された中から、新しい方を迎えました。9人でわいわいと楽しく有意義な時間を過ごしました。

■4月例会： 4月1日(火) 午後1時30分

テキスト：“U.S. Steel and Nippon Sue Biden Over Decision to Block Merger”
 (The New York Times)

■5月例会： 5月13日(火) 午後1時30分

テキスト：“These Words Are Disappearing in the New Trump Administration,”
 by Karen Yourish, Annie Daniel, Saurabh Datar, Isaac White
 and Lazaro Gamio (The New York Times, March 7, 2025.) (予定)



皆様、奮ってご参加ください！

【訂正】前号(3月号)3ページ5段2行目「谷屋弥次郎兵衛の墓」は「谷弥次郎兵衛の墓」の誤りでした。訂正いたします。



「戦争するな！どの国も」 第11次国際署名にご協力下さい

今秋、アセアン会議に合わせ議長国のマレーシアに届けます。
 目標個人3000筆、団体50筆です。ご協力をお願いします。

大阪AALA
 へのお誘い

会費 月800円(年9,600円) (25才以下は年3,000円) ※入会金 500円
 *会費の会計年度は毎年4月から翌年の3月です。半期毎に4,800円ずつご入金をお願いします。
 *会費の中には機関紙代も含まれています。月初めに大阪AALAと日本AALAの機関紙を郵送いたします



Osaka

発行

大阪アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会 (大阪AALA)
 Osaka Asia Africa Latin America Solidarity Committee

〒540-0004 大阪市中央区玉造1-6-11 黒石ビル3F

TEL 06-6768-5360 FAX 06-6768-5361

E-mail: osakaaala@nifty.com HP: http://osakaaala.la.coocan.jp/

機関紙・宣伝委員会

